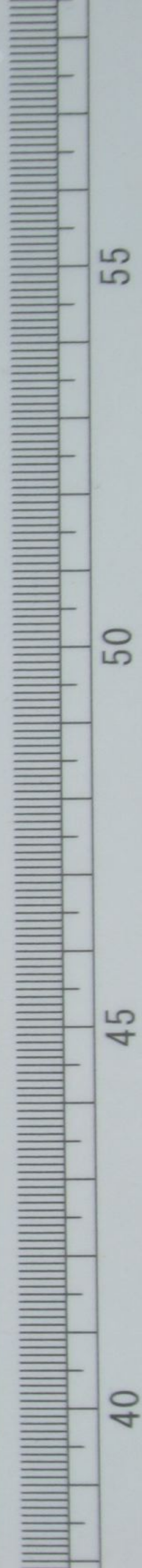
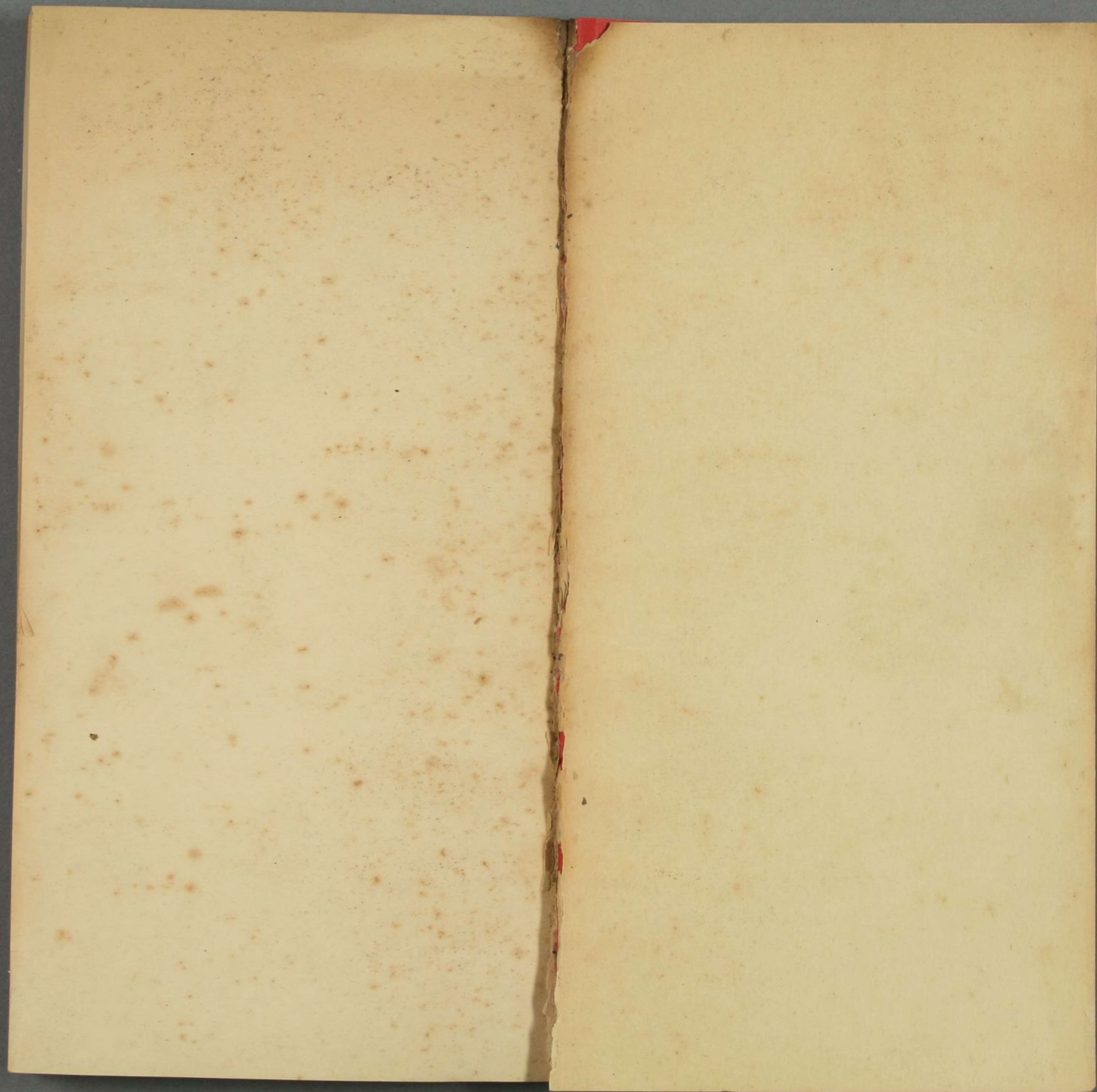
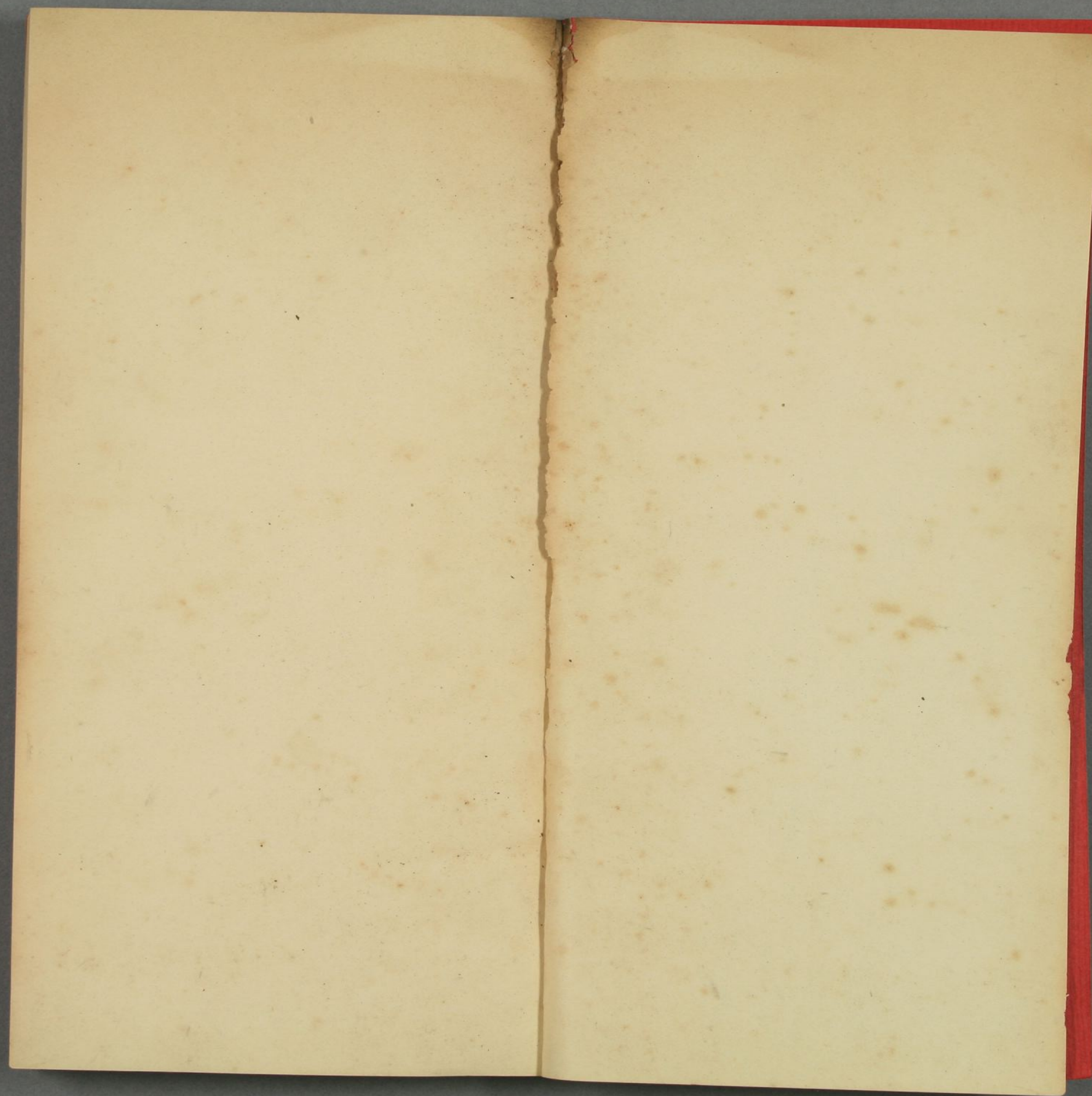


多
摩
川

集句四第樓碧一







多
摩
川

多摩川の、一河の流れ。
或時は水澄みてながれ、或時は水も涸れく
に、またの時は濁流渦を巻き、たうたうとし
て流るゝ。
春夏秋冬流れて、遂にやむことをしらす。

まこと愛しくも、奇しき川のすがた。
水の流れてやまず。

一碧樓第三句集「朝」發刊後、大正十三年九月より
昭和二年末までの作より選抄して此一集をつくる。

昭和三年春 於玉川寓居

一 碧 樓

昭和二年作

山のべの鳥はをりをりにさけび冬の雲

戸口冬の夜の月あかりにて

ものよ時雨ふるよるの家のうち

二つ三つ見え冬の日の藪中の石

冷ゆる日夕飯の魚をたうべ

日のひかりこの谷の冬を待ちつつ

冬を迎ふる大根畑とわが家と

白露の野原のみちをゆきかかり

日
が
あ
た
り
穂
田
の
な
ら
ん
で
ゐ
る

秋
の
日
暮
る
る
垣
の
そ
と
の
ひ
ろ
び
ろ

早稲は刈りし越後の國この國のひろさ

草にあそぶこどもたち秋の日のてり

萩にしばしわれら身を沈めてあらむ

月夜となりし田の中の家の構へ

わづかわが窓に見えて夏の夕空のいろ

木木の青い葉の吹き散るに出でてこどもら

里治氏の墓に詣る
このみちをのぼる虎杖もすかんぽも嚙まず

一日二日冷えて春の日の家のおもて

來しも五月の海の松島瑞巖寺

雨雲を洩る日のひかり人人よ隣り住めるよ

窓とちてゐるか地の雪の水づき

若きすゑものつくり

門前雪しろのたまり吹く風

追

悼

一茶の墓に詣つ
木木がまばらな淡雪をふみわたり

山白雪の峰さへわかぬ空のいろ

春の野を來し暮れかかり茶の木の垣も

海のうちねりあたたかに日の暮れてくる

彼岸も果てし曇りつつ山の尾のいろ

雨ふりかけ空のあかるさ伊吹山

裏口の花咲けよ野のくもり

二三軒棟のさみしきや竹の秋

白雪よ家のうしろにふりつもらたり

窓下の雪消え残り戸をあけてをる

梅をさす一つの甕ありこれの甕のたのしき

空のくもりうつつに咲きし榛の木の花

梅ももう咲く川向ひの夕の雲

こうね三うね雪菜と聞けば家のまへ

霜の水長野にてづきこれのみちゆけばかしは原

ここにも荒海のひびき葱畑

うごいてゐる空いつたいの冬の雲

寒き日の蓑をつけしがなつかしく

里人ら冬の日の山山大いなる

大正十五年作

庭前は梅の葉のちる朝の雲

雞よ草の枯れそめしかな

稻の秋の田水の錆びし見つつゆかなむ

冬を迎ふる新居この家に松の木ありて

東上口占
藪添もゆく野菊咲いてるこのみちをゆく

鹽飽島にて
土用浪のしらけこの浦につづく浦浦

木木のしげりて空より雨ふりかかり

一夜さのなごり蚊遣の草も

暑き日のあれやこの浦の歸り舟

よもすがら水雞の鳴けば夜のあけし

一人か山の鳥に鳴かるるか行く人

佐渡ヶ島夏めきし天つ日のひかり

二上山は北へなだれなだれるて行く春

祭見に來しとなく逢ひに來しかな

藤島神社に詣つ、まゐる人
とて多からぬさまながく
に殿かにしてありがたし。
松のみどり立ちて雲みな白し

北の山さくらの梢に見えて

ひとりりて舟の帆をあぐるかな

けふ涅槃いちちの池の面

住吉天王寺大阪の春の空

どころの人のゆきかひ春の空くもり

この朝の日のてりそめし竹の秋

山ありてこの春の彼岸がくる

このあたり梅はまだ咲かぬ藪おもて

河原蓬が枯れて逢はぬいくにち

野のひかりて水のかれがれ

かなたへゆく人人雪をふみて

火燧にゐる母にうちあけず一日二日

ふぶきて山見えすゆくみち

渚の波も松の内の舟人

大正十四年作

雲なく暮るる日の畑の菊の花

飛驒のかた大空秋となり

雞頭きるを見てをつてくれる

峰峰をけしきの秋風たち

木にゐる蟬見えてゆくみち

わたしたちに庭の草ぬれてゐる

朝の日さみしきは道にそへる家家

井戸ありて棲めば草長けし

草を刈るいちにち山のなだれを

西の空の暮れ残り彼方
満洲にて

老虎灘千勝館別墅
ゆすらうめをわがてのひらにうけ十ばかり

ゆくゆく草を飛ぶ蠅をはらひ
旅

雞が飲んでゐる水壺の水ある

こゝ玉島の寓居は天満町といへ
るくるわまちの中ほどにして
となり住むひとびとや夕べの星ひかり

あさひばりが鳴いて立つてるる木木

山の土ややまつつじ花咲きし

家の軒みちに突き出でし寒明け

人こゑす畑の土のうるほひ

うすうす樹のかげすここも

霜夜ねむる母にして子にして

きりぎし大寒に入りし日のてり

枯芝を踏み來る弟なり

木のもとの落葉青き葉のまじり

鳩が出はいりするまるいあながみんなうすぐらい

大正十三年作

木を伐るものひとり林に入り

山
こ
の
ご
ろ
炭
焼
の
煙
立
た
ぬ
明
け
暮
れ

秋
の
日
門
前
の
巖
打
ち
伏
し

は
う
は
う
秋
の
風
吹
い
て
赤
土
山

山
の
う
ら
見
え
て
ゆ
く
み
ち
の
つ
ゆ
け
き

來しよつかつか來しすだれのうち

蘆の花咲きし道ありてゆくに

23/23

昭和三年五月五日發行

定價金二円

著作兼發行人

塚直三

印刷者

藤廣次

印刷所

玉島活版所

發行所

海紅社

東京市外玉川村瀬田

東京府住原郡玉川村瀬田
千四百八十九番地
岡山縣淺口郡黒崎村
三千四百一十番地
岡山縣淺口郡玉島町新町

